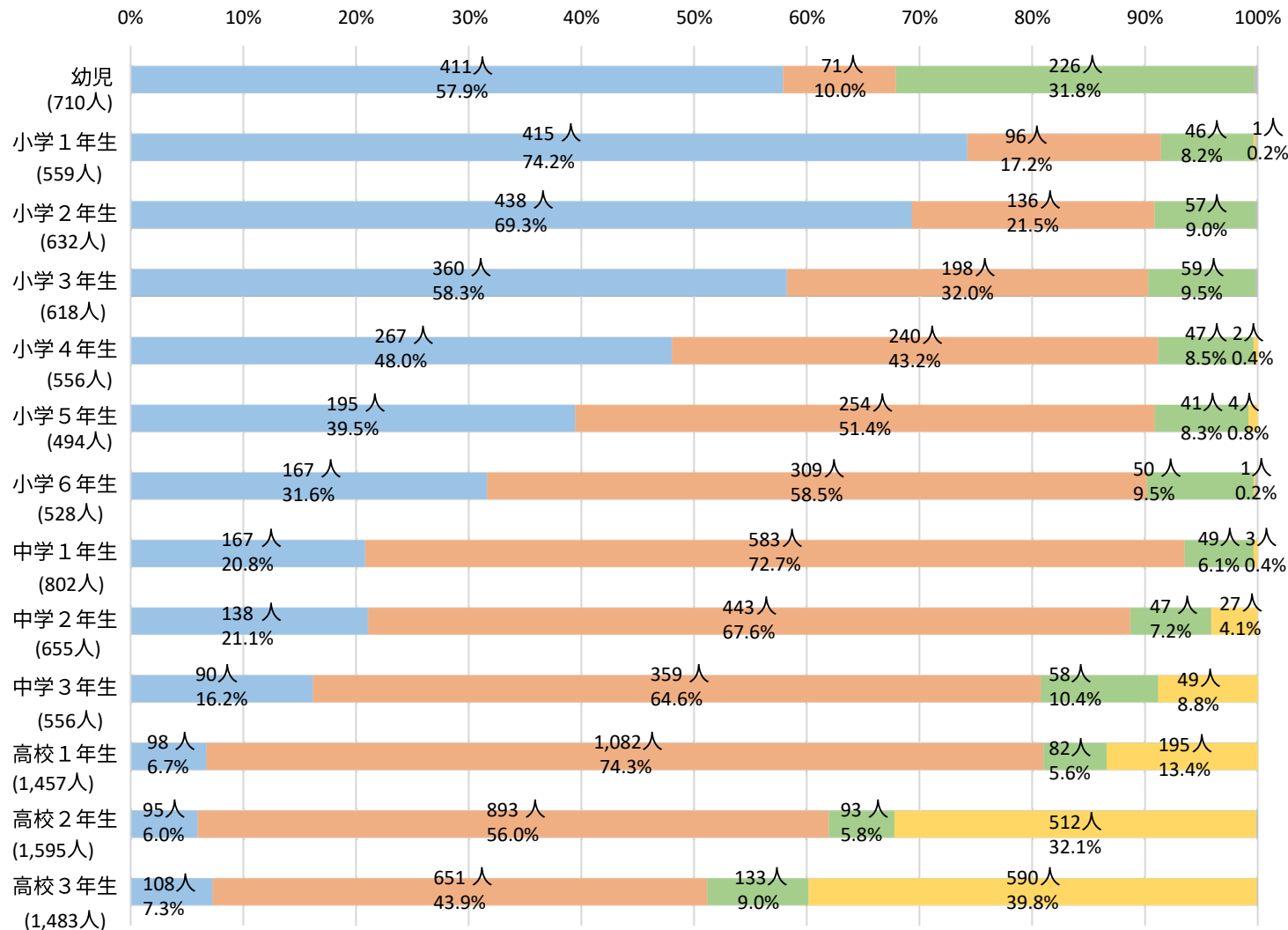


○ 幼児・児童・生徒に関連する交通事故の状況

- 小学生は低学年ほど歩行中の事故、高学年になるほど自転車乗用中の事故の割合が高くなっている。
- 中学生・高校生は自転車乗用中の割合が最も高く、学年が上がるにつれて二輪車乗車中の割合が高くなっている。
- 高校生から死者・重傷者が大きく増加し、特に自転車乗用中が増加

幼児・児童・生徒の状態別死者・重傷者数【令和3年～7年合計】



(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
 「児童」とは、小学生をいう。
 「生徒」とは、中学生及び高校生をいう。

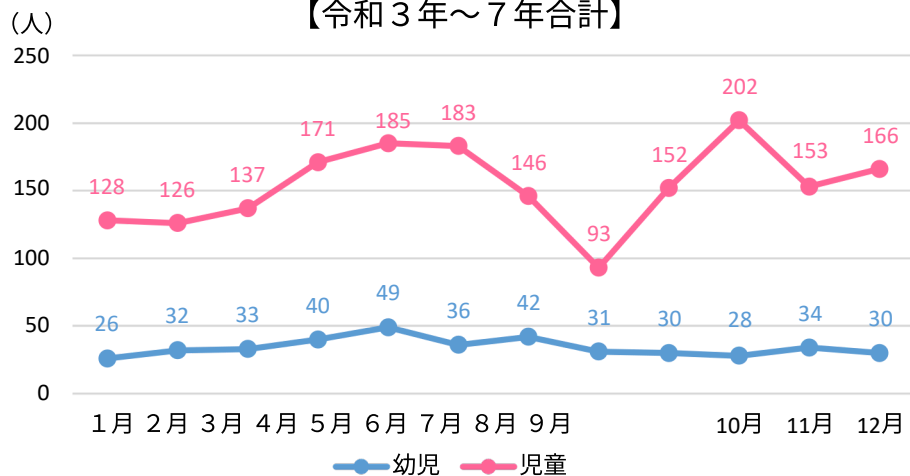
■ 歩行中 ■ 自転車乗用中 ■ 自動車乗車中 ■ 二輪車乗車中 ■ その他

○ 幼児・児童の歩行中の事故

- 月別では、幼児では大きな差は見られないが、児童では4月から6月にかけて増加する。
- 通行目的別では、幼児は「遊戯」、児童は「下校」がそれぞれ最多
- 法令違反等別では児童・幼児とも「飛出し」が多い

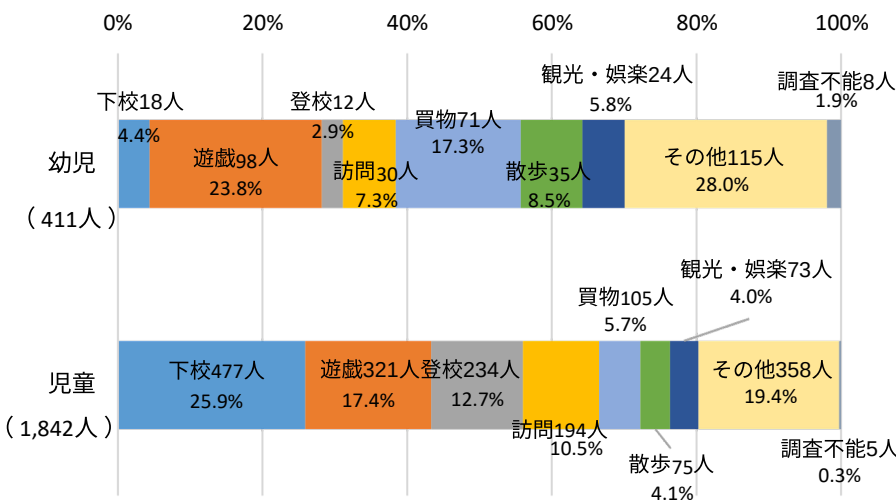
歩行中幼児・児童の月別死者・重傷者数

【令和3年～7年合計】



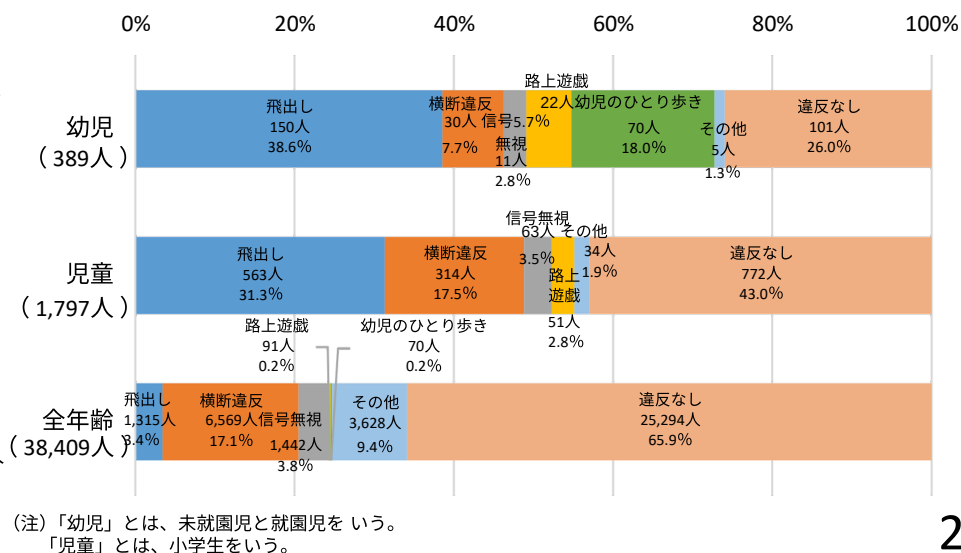
(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
「児童」とは、小学生をいう。

歩行中幼児・児童の通行目的別死者・重傷者数
【令和3年～7年合計】



(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
「児童」とは、小学生をいう。

歩行中幼児・児童(第1・第2当事者)の法令違反等別死者・重傷者数
【令和3年～7年合計】

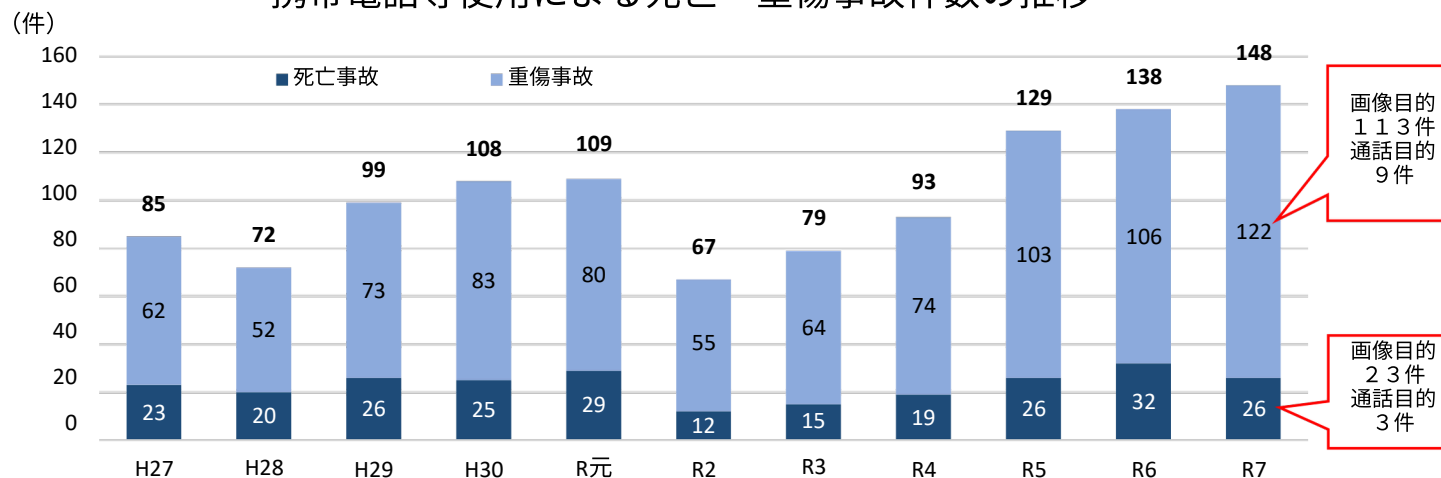


(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。
「児童」とは、小学生をいう。

○ 自動車～携帯電話等使用

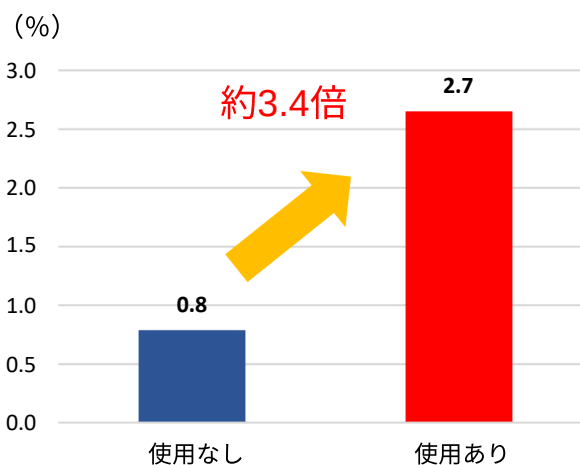
● 携帯電話等使用による死亡・重傷事故は近年増加傾向
● 携帯電話等使用時の死亡事故率は不使用時の約3.4倍

携帯電話等使用による死亡・重傷事故件数の推移



(注) ・ 第1当事者が一般原付以上の件数。
・ 携帯電話、スマートフォンの使用が要因となって発生した事故を集計。

携帯電話等使用有無別死亡事故率の比較【令和3年～7年合計】

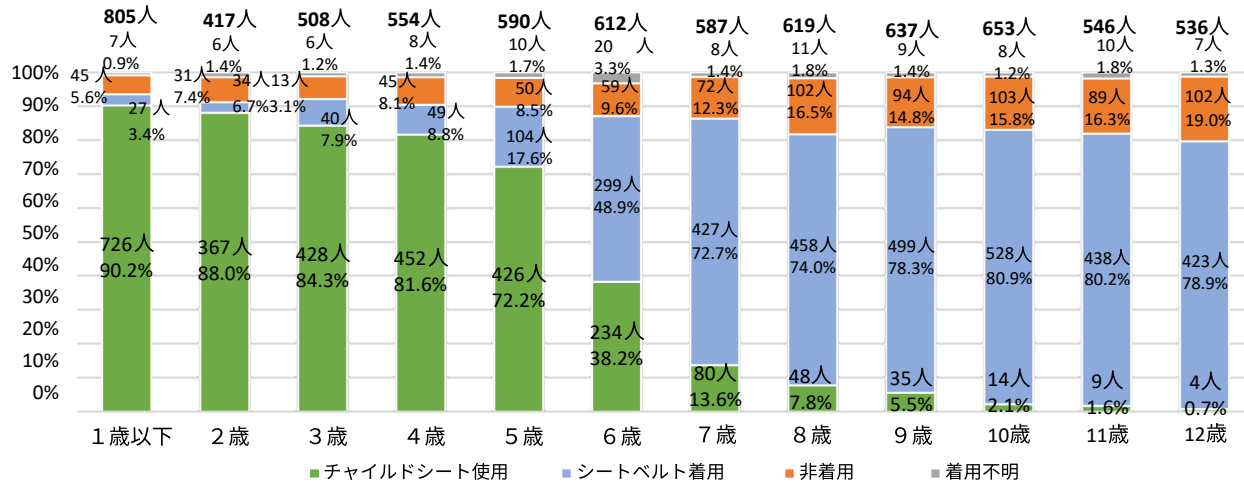


(注) ・ 第1当事者が一般原付以上を集計。
・ 「死亡事故率」とは、第1当事者が一般原付以上の交通事故件数に占める死亡事故件数の割合をいう。

○チャイルドシート・シートベルト

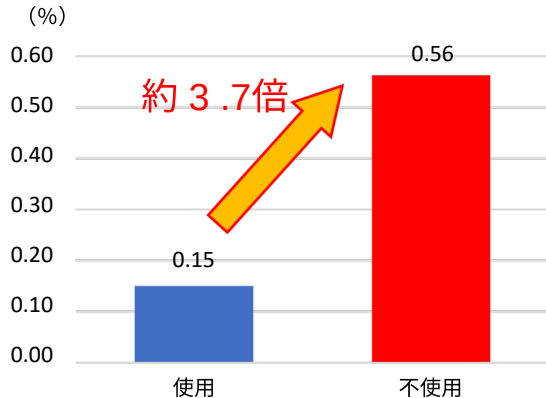
- チャイルドシート使用率は年齢とともに低下
- チャイルドシート不使用時の致死率は使用時の約3.7倍
- シートベルト非着用時の致死率は着用時の約14.8倍

自動車同乗中幼児・児童のチャイルドシート使用状況別死傷者数【令和7年】



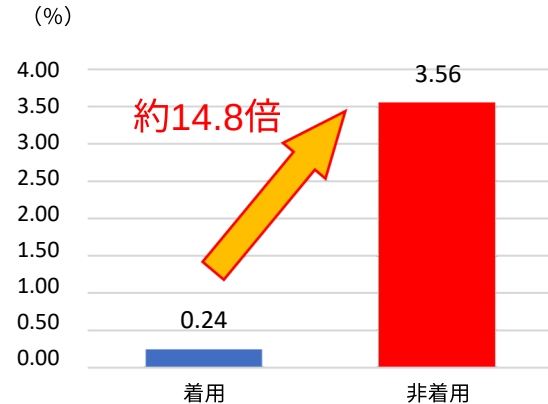
(注)「幼児」とは6歳未満の者、「児童」とは6歳以上12歳以下の者をいう。以下同じ。

自動車同乗中幼児のチャイルドシート使用有無別 致死率比較【令和3年～7年合計】



(注)・「致死率」とは、死傷者のうち死者の占める割合をいう。以下同じ。
・「不使用」とは、シートベルトを使用していた者及びチャイルドシート・シートベルトいずれも使用・着用していなかった者をいう。

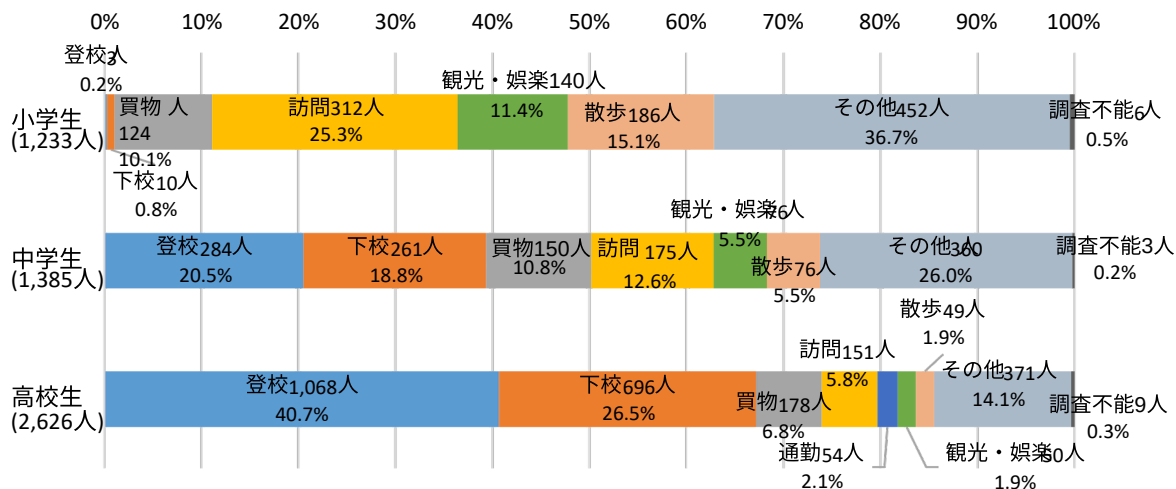
自動車乗車中のシートベルト着用有無別 致死率比較【令和3年～7年合計】



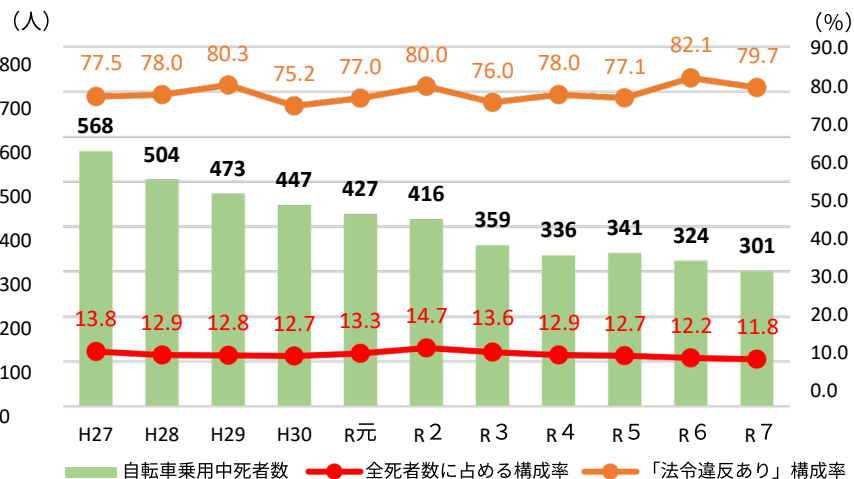
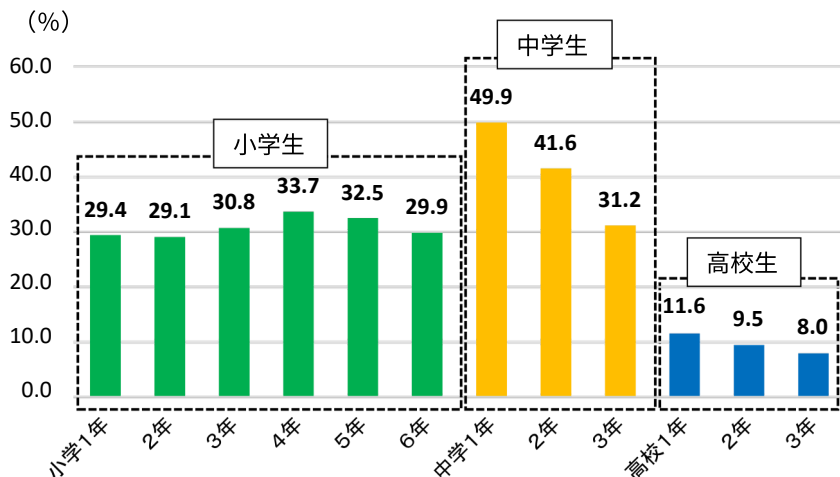
○ 児童・生徒の自転車事故

- 通行目的別では、小学生では「訪問」が最多、中学生・高校生では「登校」が最多
- ヘルメット着用率は、小学生は全学年で約3割、中学生は1年生が最も高く約5割で、学年が上がるにつれ低くなり、高校生は全学年で最も低くなっている。
- 自転車乗用中死者数は減少傾向にあるが、法令違反ありの構成率は約7割から8割で高止まり

児童・生徒の通行目的別自転車乗用中死者・重傷者数【令和3年～7年合計】



児童・生徒の学齢別ヘルメット着用率【令和3年～7年合計】 〈参考〉 自転車乗用中死者数（第1・第2当事者）の推移



(注) ・「ヘルメット着用率」とは、全死傷者のうち、ヘルメットを着用していた者の割合。

農業用の用排水路、ため池等への 転落事故における死亡者数

農業用の用排水路、ため池等への転落事故における死亡者数

は、毎年**100人以上**となっています。
このうち子供の死亡者数は、毎年5人程度となっています。
(年度別の転落事故における死亡者数)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
死亡者数	125	103	124	121	122	140	146	146
うち10歳未満	3	3	2	2	3	1	0	2
うち10歳以上20歳未満	4	3	2	3	3	3	0	3



農業用の用排水路及びため池の危険性

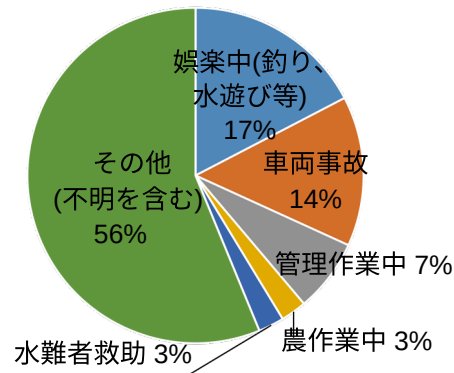
ゲリラ豪雨などが発生すると、一気に水路の水位が高くなるなど、大変危険なので、農業用の用排水路などへ近づいたり、遊ばないように注意して下さい。



農業用の用排水路の増水状況

ため池の転落死亡事故は、釣り、水遊び等を行っているときに発生することが多くなっています。
ため池へ近づいたり、遊ばないように注意して下さい。

(死亡事故の原因別割合)



※都道府県から農水省への報告(H27年度～R6年度)による。



農業用の用排水路への子供の転落事故防止のための啓発活動の取組事例

毎年、3～4月頃から様々な方法で、農業用の用排水路への転落事故防止対策を周知しています。

農林水産省公式FacebookやX(旧Twitter)を活用して転落事故防止対策を周知



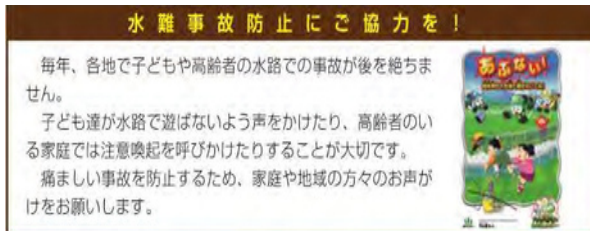
■ 農林水産省公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/maffjapan>

■ 農林水産省公式X(旧Twitter)
https://twitter.com/MAFF_JAPAN

一般紙を通じて地域に転落事故防止対策を周知



施設管理者が発行する広報誌により転落事故防止対策を周知



地域の小学生を対象に、農業用の用排水路の見学会を行い、農業用の用排水路の役割や危険性について認識を深めてもらうよう周知



マスメディアを活用して地域に転落事故防止対策を周知



総合学習(出前授業)を活用して転落事故防止対策を周知



農業用ため池への子供の転落事故防止のための啓発活動の取組事例

ため池事故防止・注意喚起動画の作成（宮城県）

宮城県では、児童、教師、保護者等に、ため池の役割や転落事故の危険性の理解を深めてもらうための動画を作成するとともに、教育機関と連携し、動画の周知と活用を図っています。

<取組内容>

「ため池事故防止・注意喚起動画」を県広報課YouTubeチャンネルで公開（R4年7月）



動画の周知と活用を図るため、県教育委員会と連携し、以下の取組みを実施

- ・警察署や消防署，教育委員会等が参加する会議での情報共有
- ・学校向けに配布する広報誌への情報掲載
- ・全小学校に動画活用について案内するとともに、保護者等への一斉メール配信の実施
- ・職員による小学校への出前講座の実施



ため池事故防止・注意喚起動画



小学校での出前講座の様子

QRコードより視聴いただけます。

小学校と連携した「ため池ふるさと教育プログラム」の実施（兵庫県）

兵庫県では、ため池等を地域の財産として認識するとともに、ふるさとへの愛着を醸成するため、6年間の継続的な体験型の学習機会を提供する「ため池ふるさと教育プログラム」を実施しています。

<4年生の授業内容>

- ため池の役割や意義のほか、危険性についても学習し、ため池で溺れに浮き輪代わりとなる救助具「レスキューペットボトル」を発案。ボトルの数や重さ、ロープの取り付け方法などを実際に近くのため池で試しながら製作、設置。

この取組は、新聞やテレビのニュースなどにも取り上げられました。



ため池学習の様子



レスキューペットボトル発案



レスキューペットボトル

教育機関と連携して、小学生等にチラシ等を配布



ノート配布（北海道土地連）



チラシの配布（青森県）



チラシの配布（新潟県）

農業の用排水路及びため池への転落事故防止のための啓発ツール

■ 農業用ため池転落事故防止PR動画

【ため池に入るのは危険です（BUZZMAFF）】



<BUZZ MAFF（ばずまふ）とは>

農林水産省職員自らが、省公式YouTubeチャンネルでYouTuberとなるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力等を発信するプロジェクトです。

【ふしぎな森とため池のひみつ（全国土地改良事業団体連合会）】



QRコードより視聴いただけます。



■ 転落事故防止の啓発ポスター

（全国土地改良事業団体連合会 作成）



□ 【農業用水利施設の安全対策啓発ポスター】

全国水土里ネット全国土地改良事業団体連合会）では農業用の用排水路やため池への転落事故防止を呼びかけるポスターを作成し、無償でデータ提供しています。

農業の用排水路及びため池への転落事故防止のための啓発ツール

■ 農業用排水路転落防止マンガ①



■ 農業用排水路転落防止マンガ②



【実施内容】

1. 河川水難事故防止に向けた協働の推進

国土交通省では、教育関係機関を含め関係機関との河川水難事故防止に向けた認識の共有・取組の協働等を推進します。

2. 水難事故防止に関する講習会等の実施

国土交通省において予定しているイベント・説明会等において、可能な範囲で河川の安全利用を啓発している団体などと連携を図りつつ、水難事故防止に関する説明・講習などを実施します。

3. 重点的な河川巡視の実施

日頃から実施している河川巡視において、水難事故が多発する場所を追加するとともに、利用者が多くなる時期に先立ち重点的に点検を実施します。

4. 河川水難事故防止の「出前講座等」の実施について

児童の水難事故が多くなる夏休み期間に先立ち、河川水難事故防止週間を中心に、河川水難事故防止に関する出前講座等を可能な範囲で積極的に実施します。

5. ウェブサイト等による情報発信について

河川水難事故防止週間中及び夏休み期間中に実施、または予定の河川水難事故防止の啓発に関する内容を含んだ出前講座等の実施（予定）日、講座名、内容、実施対象等を各地方整備局等において積極的な情報発信を実施します。

（参考）国土交通省ウェブサイト

国土交通省 出前講座のご案内

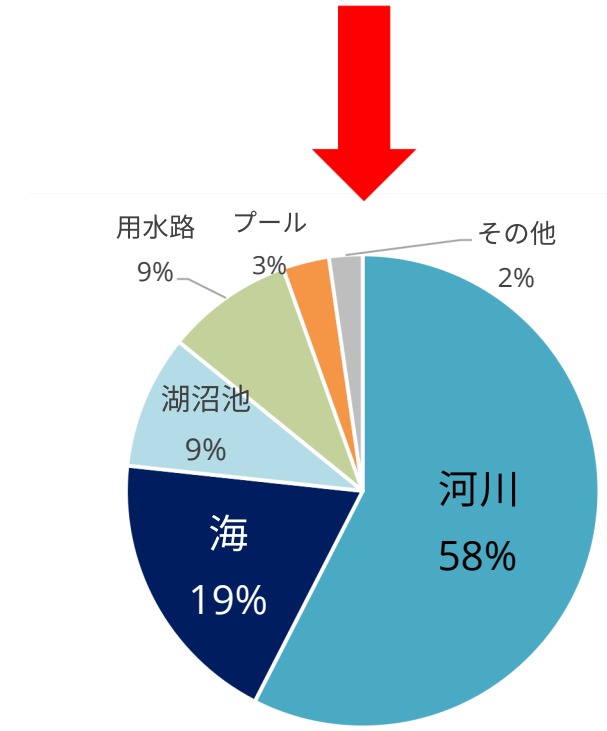
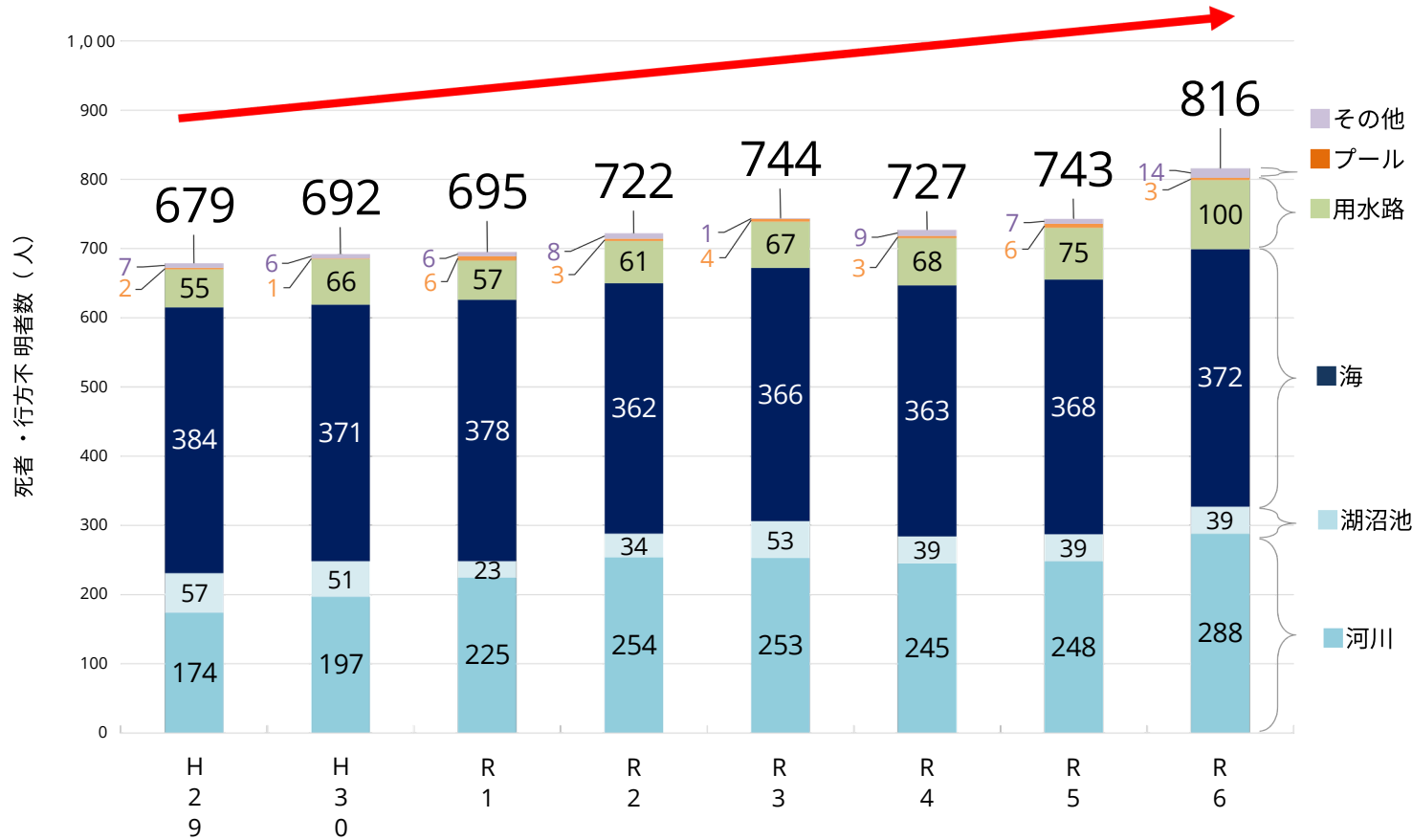
URL：https://www.mlit.go.jp/deliver_y_lecture/deliver_y_lecture.html

<参考情報>

関係報告書や取組事例、リーフレット等の参考情報は「参考資料」からご覧いただけます。

(全体)
 水難事故による死者・行方不明者数は
 近年増加傾向
 毎年600-900名程の人が犠牲となっており、
 河川はその3-4割を占める等増加傾向

(中学生以下)
 子どもは「河川」での
 水難事故が最多



中学生以下の子どもの
 場所別死者・行方不明者数
 (H15-R6)
 警察庁「水難の概況」より作成

場所別の死者・行方不明者数（総数）の推移

警察庁資料より河川財団作成 (H15以降は「水難の概況」を参照)

こどもの河川水難事故防止に向けたポイント

こどもに知って欲しい3つのポイント（+引率者）

動画等でも紹介



河川水難事故防止に重要な、上位事項を整理

1

2

3

4

5

Good

Bad

誰かと一緒に行く

川には思わぬ危険が隠れています。
必ず複数人で行動しましょう。

Good

Bad

上流の天気も確認

今いる場所が晴れていても、
上流の雨で
水かさが急に増えることがあります。

Good

Bad

**大人もこどもも
ライフジャケット着用**

ライフジャケットは
「川のシートベルト」です。

Good

Bad

こどもから目を離さない

こどものすぐそばで
見守りましょう。

Good

Bad

大人は下流でスタンバイ

こどもより上流側にいると、
流されたときに
救助が間に合いません。

知識・技能

情報・場所

装備

知識・技能

知識・技能

大人・こども共通

引率の大人（教員・保護者等）

知識・技能の習得に向け、年齢層や対象に合わせた教材等を作成

知識・技能



リバーアドベンチャー ～川に見せられしものたち～
児童向けの水難事故防止アニメーション動画
(国土交通省)



GWや夏休み前の注意喚起に



(冊子)



(WEBアプリ)

うんこドリル「川の安全」
川遊びの危険や安全対策を収録した小学生向けの冊子と
WEBアプリ©Y.F/BKS
(監修:国土交通省、河川財団 発行:文響社)

教科等の参考資料・教材等



RIVER SCHOOL川を教室にして伸ばす生きるちから
授業における河川体験活動の概要・事例紹介資料 (国土交通省)



※ 詳細はQRコードからご確認ください

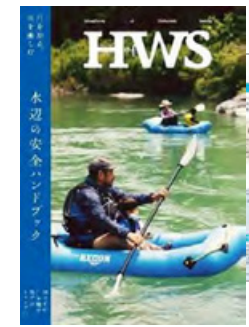


360度映像「小学校5年理科 流れる水の働きと土地の変化」学習指導要領の内容に合わせてながら、勾配と流速との関係、上流～下流の石の大きさ等を関連付けながら探究学習を支援するツール (国土交通省)

教員・保護者等向け資料



ミズベアソビガイド
川の「恵み」の部分 (河川における自然体験活動) のメニューや安全対策等を紹介 (国土交通省)



水辺の安全ハンドブック
川での安全利用に関する資料 (学校での活動にも活用できるようにチェックリストを作成) (河川財団)



川の指導者講習会
教員や行政職員向けの安全管理講習会等をNPO法人川に学ぶ体験活動協議会 (通称RAC) が開催



ライフジャケット着用推進の取組やデータ整理・情報提供等を実施

川での活動に適した
ライフジャケットの例

装備

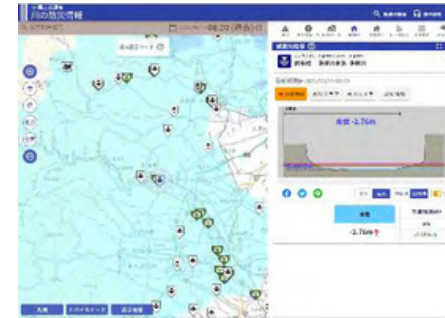
情報・場所



RAC川着ライフジャケット認定マーク



「川のシートベルト ライフジャケット」
河川水難事故防止の取組み
(河川におけるライフジャケットの着用を促進)



川の防災情報を通じた情報提供
地域の雨量情報、川の水位情報
等をリアルタイムで配信



現地看板設置イメージ (例)

現地看板による情報提供
注意喚起を促す内容の看板等による情報提供



水難事故防止普及啓発事例集
国土交通省による各種啓発活動の事例を整理



河川水難事故防止ポータルサイト
関係施策や水辺の安全に関するコンテンツ等を一元化して紹介



水難事故防止に向けたデータ整理・情報発信等



水難事故に関する調査研究
河川等での水難事故の統計に
関する研究・資料作成等



全国の水難事故マップ
水難事故の発生箇所や状
況をWEB上に表示



これらのコンテンツ等を上記サイトに集約

ウォーターセーフティガイドとは



<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/water/>

以下の8つのマリレジャーについて事故防止のための情報を取りまとめた総合安全情報Webサイトです。

- モーターボート
- カヌー
- 水上オートバイ
- スタンドアップパドルボード
- 遊泳
- ミニボート
- スノーケリング
- 釣り

16歳未満の事故者が多い「遊泳」について掲載内容の部を紹介します。

詳しくは右の二次元コードからウォーターセーフティガイドをご覧ください。



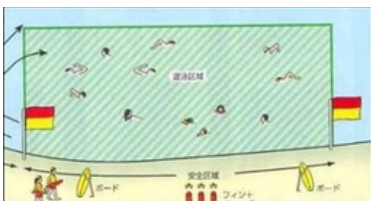
【二次元コード】

海で遊ぶときの注意

海はプールと違って、泳ぎが得意な方でも波や潮の流れにより溺れてしまうことがあります。

海水浴は、遊泳区域が旗やロープで示されており、ライフセーバーや監視員が居る開設された海水浴場で泳ぎましょう。

天気予報や自身の体調を確認するとともに、ライフジャケットや防水パック入り携帯電話などを持っていきましょう。



離岸流について

沖に向かって発生する強い流れに注意しましょう。離岸流はとても強い流れのため、一旦この流れに巻き込まれてしまうと、気がつかないうちに沖まで流されてしまい大変危険です。

沖に流された場合は、落ち着いて海岸と平行に泳いで離岸流から脱出しましょう。



子どもから離れない

子どもは大人に比べ危険に対する判断ができません。思いがけず小さな波でも足をすくわれ、溺れることがありますので、保護者の方は、常に子どもから離れないようにしましょう。また、万が一に備えライフジャケットを着用させましょう。

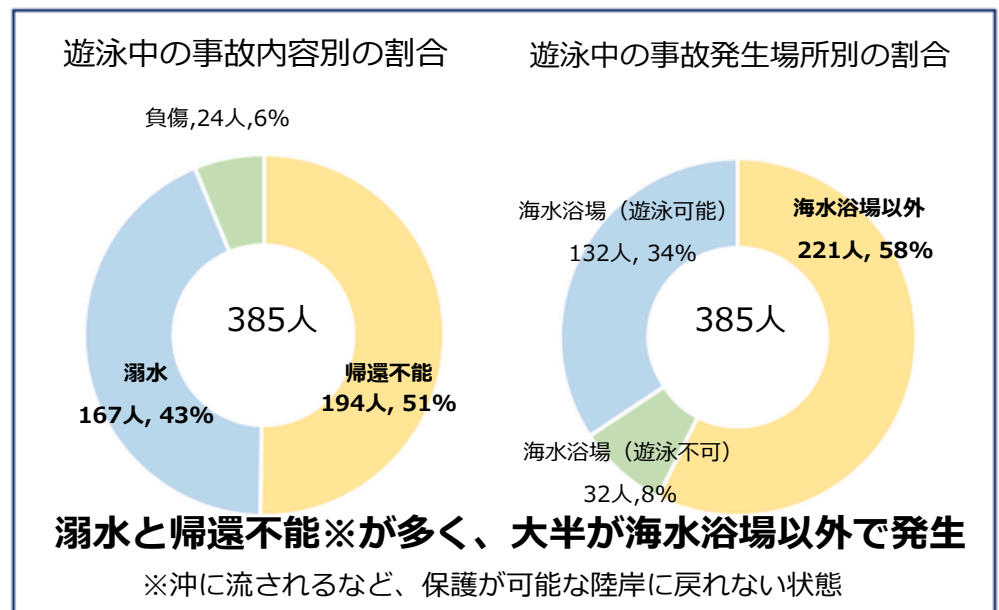
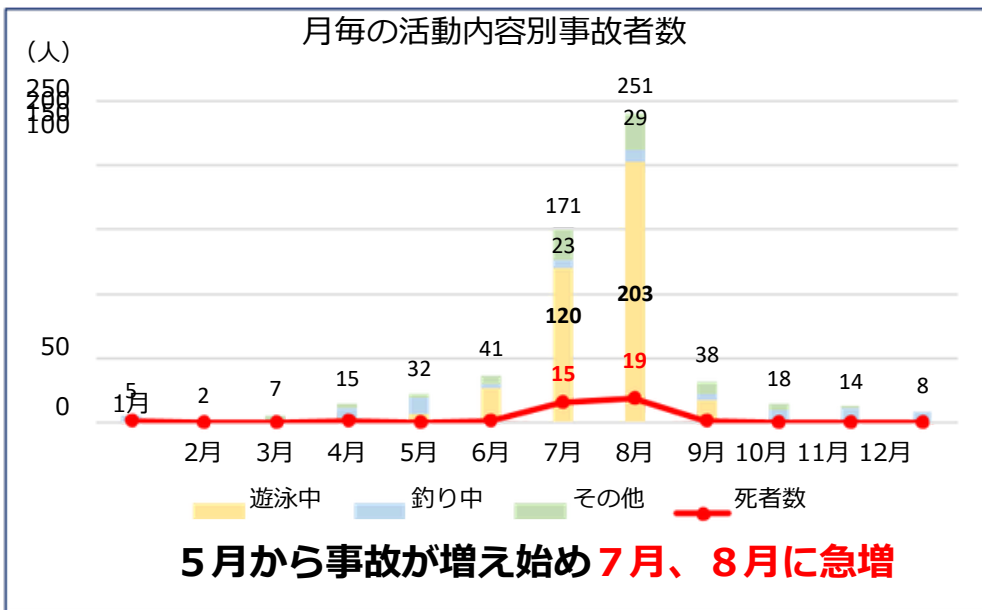
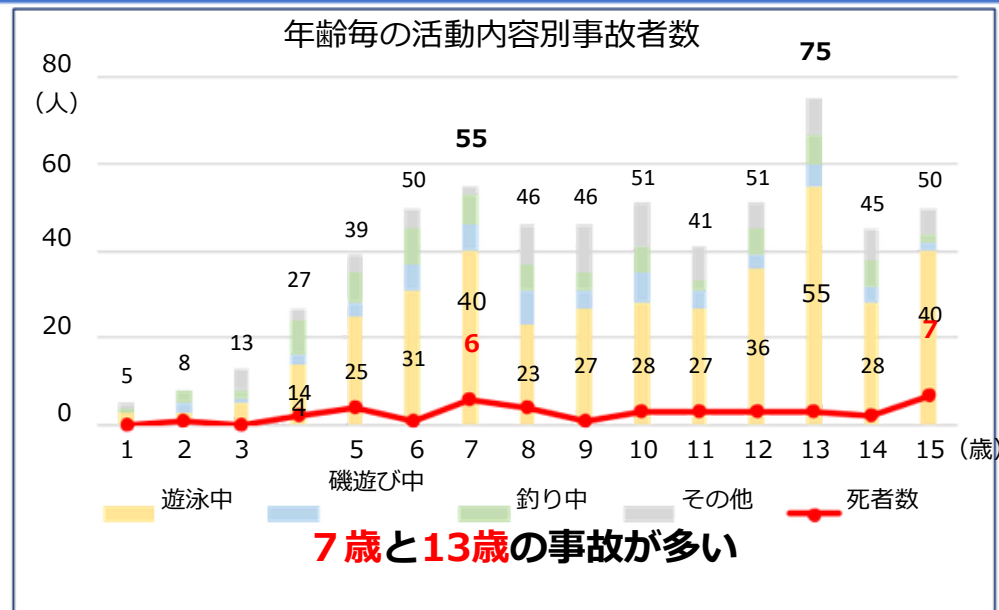
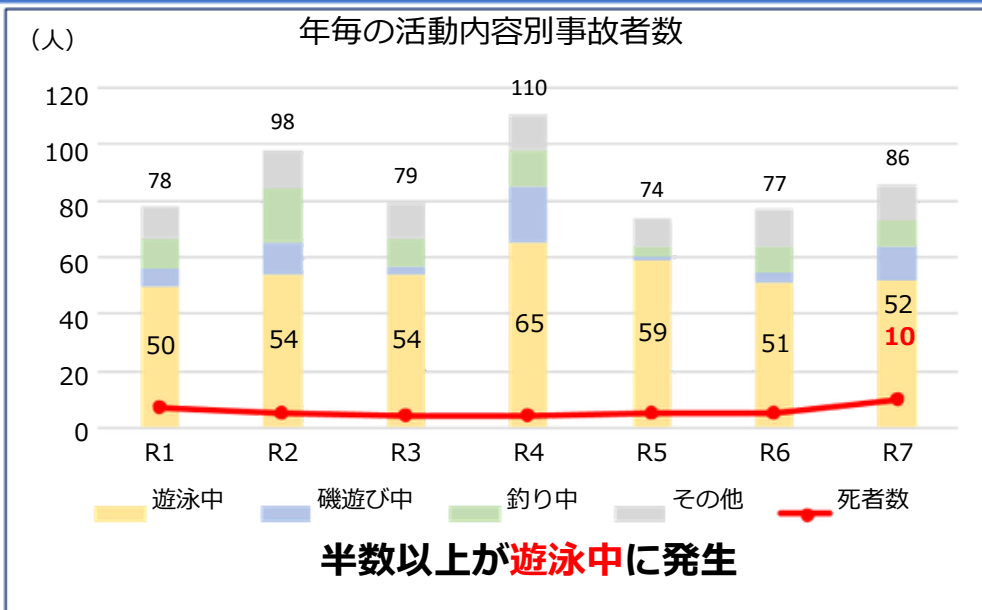
水辺に子どものみでいるのを見かけたら、大人が注意するようにしましょう。

波打ち際でも、子どもが波にさらわれ沖に流される事故が発生しています。海に入っていないなくても油断は禁物です。



118番

16歳未満の事故者状況（令和元年～令和7年）



海上保安庁の取組について



遊泳者への安全啓発活動



安全教室におけるライフジャケットの着用体験

事故事例の紹介

遊泳中に沖に流された事故

中学生が沖に向け遊泳していたところ、潮に流され戻れなくなりましたが、運よく付近の岩場に漂着し、通りかかったゴムボートに救助されました。



浮き具で遊んでいたら

沖に流された事故

小学生の姉弟が波打ち際で大型浮き具に乗っていたところ、風の影響で沖に流されました。父親が助けようとするも追いつかず、その後、ボートにより救助されました。



保護者が目を離したときに

溺れた事故

家族でスノーケリングをしていたところ、親が目を離した際に、小学生の子どもが海面を叩きながら溺れていました。父の救助が間に合い、病院に搬送されましたが、1週間の療養となりました。

